

利点、欠点理解し選択を

お口の



ントの生存率(脱落せず残っている状態)はどうでしょうか。文献によると5年間でブリッジは84%、インプラントは95%でした。ただ、この数字は残存している歯の総数やインプラントを行う部位の状態、生活習慣、健康状態、年齢など個々人で変わります。

ブリッジでも審美性、強度を向上させる方法はありません。一概にどちらの治療が適しているかということは言えません。それぞれの利点、欠点をよく理解した上で治療の選択をするべきです。

歯を失ったままにしている隣りの歯が傾いて、かみ合わせが悪くなったりします。それに伴い食べかすが口の中に残れば、むし歯や歯周病の原因となり、健康な歯を失うこともあります。何も問題が起っていないか、他の部位に負担がかかり、問題が起る懸念もあります。かかりつけ歯科医とよく相談して、より適した治療を選択してください。

【問い】 食事中に右下の奥から2番目の歯が痛みます。近所の歯科医院を受診したら、「根っこが割れていて保存が難しい」と言われ抜歯となりました。その後の治療法としてブリッジとインプラントで迷っています。どちらがいいのでしょうか。(大村市、42歳女性)

ブリッジとインプラント



回答者
尾崎 隆海
東彼杵郡川棚町下組郷
尾崎歯科医院歯科医師

【答え】ブリッジは、失われた歯の両隣の歯を土台として、失った歯を含め橋のように冠をつなげてセメントで固定する治療法です。見た目にも優れ、異物感も小さく機能的でもあります。しかし、土台とするために両隣の歯を削る必要があるのが欠点です。インプラントは、歯を失った部分の顎の骨にチタンなどでできた人工歯根を埋め込み、その上に人工の歯をかぶせる治療法です。外科処置が必要で、自費診療のために高額になります。治療期間は長くなりますが、より審美性、機能性に優れ、両隣の歯を削る必要はありません。

では、ブリッジとインプラ

質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します(直接本人に回答はしません)。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒805-2186 001、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページは「80020ながさき」で検索できますので参考にしてください。